
クロスマジック

遊多

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クロスマジック

【Nコード】

N0205E

【作者名】

遊多

【あらすじ】

突如、現れた謎の生命体——ホムンクルス。そして『彼ら』の裏切り。それから一年。今、全てが始まる……。

序章 「終わりと始まり」

深く溜め息をつき、麻倉神は目の前に横たわる血に染まった男たちを見た。

「忠告はした」

憂うような表情で呟く。

しかし、男たちは目を開けているのもやっとなような様子で全く反応を示さない。

「……じゃあな……」

別れを告げると同時に男たちの体が燃え上がった。超高温の炎の中で肉が焼け、骨が焼ける。ようやく炎が消えたとき、そこには白い灰だけが残っていた。そして、その灰も風に舞って虚空へと姿を消す。そこにはもう、何も残っていない。

帰るか――。

死にゆく者たちに別れを告げ、証拠が残らないように骨まで焼き尽くした。もう、ここにいる理由はない。

神は踵を返し、ゆっくりと帰路についた。

扉を開け、家の中に入る。

まずは洗面所へ。先ほど、男たちの相手をしたときに顔に返り血を浴びてしまったため、それを洗い流さなくてはならない。

軽く水で洗い、今度は石鹸を使って返り血を浴びたところを重点的に洗う。もう、血の色は落とせただろう。少々血生臭い気もするが。

あらかじめ、用意しておいたタオルで顔を拭き、鏡を見る。

そこにはやや色白で小柄な少年が映っていた。適度に伸びたさらさらな黒髪。端正な顔立ちと切れ長で黒く透き通った瞳がどこことな

く冷たい雰囲気を漂わせている。

血を落としてしまうともう特にやることはない。

寝るか――。

下手に何かをして時間を無駄にするよりは寝てしまった方が全然良い。

そう思い寝室へと足を動かそうとしたとき、ポケットが震えた。

正確に言うとかポケットに入っている携帯電話が。

携帯を開き、電話をかけてきた相手の名を見る。

あさくらじん
麻倉仁。

神の双子の兄だ。普段は直接会って話すことが多く、携帯を紹介して連絡を取る事は滅多にない。そんな人間がわざわざ携帯に連絡してきたのだから何かあるのだろう。そう考え、電話に出る。

「どうした？」

『いや、ちよつと言いつらいんだけどさ』

「さっさと言えよ。どうせ大事なことなんだから」

『ん、僕たちさ。……連盟から除名されちゃった』

電話の向こうから苦笑が聞こえてくる。

「理由は？」

『お前だよ。たかが一個人のために連盟ぐるみで面倒ごとに背負いたくないだろ？』

「なるほど。で、双子であるお前も巻き込まれたと」

『上の人たちも馬鹿だよ。確かに面倒ごとの中心にいるのはお前だけど、結局は連盟も関わってるのにな』

「まあ、脳みその腐りきった老人の考えることなんてそんなもんだろ。問題はこれからどうするか、だな」

『そうだな。とりあえず、普通の人間として生きてみない？ ど
うせ、二人だけじゃ何も出来ないし、まだ急ぐ必要もないし』

「そうだな。そのことについては任せるよ」

『わかった。また、連絡する』

電話を切り、まだ明かりもつけてない薄暗い部屋を見つめる。

「普通、ねえ」

神は自嘲的な笑みを浮かべた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0205e/>

クロスマジック

2011年1月15日02時38分発行